

“政府が早く基準を”

水俣市議会も乗り出す

水俣病補償

水俣病補償問題はチツソと患者互助会との交渉が難航し、いまとなつては公費認定をした政府に対し補償基準の提示を要する意見が強まっている。そこで水俣市議会でも早期解決への積極的な運動に乗り出すことになり、十六日は公害対策委員会、十七日は全県協議会を開き「公害補償の基準設定についての意見書」を作成、二十二日に臨時議会を開いて正式に決議のうえ、政府関係各府に強力な働きかけを行なうことになった。

補償問題は公害認定後水俣病患者家庭互助会(山本亦由会長)がチツソに補償額を提示しているが、チツソ側は「公害補償のケースである」と補償額の算定基準にむつかしい問題があるため、公費認定した政府が基準を示すのが妥当である」として独自の補償額提示を避け、昨年十二月末までの四回にわたる交渉も進展しないまま現在に至っている。

「解決の糸口を解くのはやはり政府である」との考え方がチツソだけでなく互助会の間にも次第に出てきて、これまで二回厚生省や通産省などに陳情しているが、いっこうに政府の態度もはっきりせず、最近ではとくに水俣病問題は互助会とチツソだけでは解決は困難との考えから、いよいよ県をはじめ地元各市、議会などが立ち

上がり、本格的な政府への働きかけを始めた。

ことしに入ってからすでに寺本知事をはじめ渡辺水俣市助役、広田同市議会議長、山田同市衛生課長、深水県議(自民党・水俣市選出)、堀上、斎所水俣市議(自民)らが上京して厚生省、通産省、経済庁、総理府の関係各府を回り強力な陳情を行なっている。

十六日、水俣市公害対策委員会(堀上末記委員長・自民党市議)が開かれ、チツソ側から佐々木十場長、河島総務部長、中村同部次長、榎山総務課長、互助会側から山本会長、中津副会長、園村書記を委員会に呼び、それぞれの立ち場から補償問題についての経過や今後の見通しなどを検討、十七日は午前十時から市役所で市議会全県協議会を開き、前日の公害対策委員会の内容報告を行なった

れるまではむつかしく、また水俣病補償額だけを切り離した算定基準の提示は困難な問題である、といった消極的な回答しか得られていない。しかし互助会をはじめ地元では「出来るだけ努力します」という政府の態度に「望み」をかけて、さらに強力な陳情を続けてゆくことにしている。

十六日、水俣市公害対策委員会(堀上末記委員長・自民党市議)が開かれ、チツソ側から佐々木十場長、河島総務部長、中村同部次長、榎山総務課長、互助会側から山本会長、中津副会長、園村書記を委員会に呼び、それぞれの立ち場から補償問題についての経過や今後の見通しなどを検討、十七日は午前十時から市役所で市議会全県協議会を開き、前日の公害対策委員会の内容報告を行なった

る補償交渉が行なわれたにもかかわらず、いさかかも進展をみえない現状である。公害認定が初めてのケースであり、当事者双方とも相当苦慮しているところではあるが、このまま推移すればその解決はおろか不測の事態を引き起こす恐れもあり、ひいては大きな社会問題とならねないことを憂慮している。政府におかれてはすみやかに公害にかかると「補償基準」等一設定され、公正円満に解決するための行政措置を講ぜられるよう本市議会の名をもって強く要請するものである。

互助会とチツソとの間に数回にわた